

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：健康生命薬科学科

資格：准教授

氏名：仁木 洋子

研究分野	研究内容のキーワード	
化粧品科学, 皮膚科学, 色素細胞学	化粧品, 皮膚, メラニン色素, 光老化, 毛髪	
学位	最終学歴	
博士 (医学)	信州大学大学院工学系研究科	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 基礎生物学演習の実施	2020年10月2020年12月	2020年度前期講義の「基礎生物学」の講義終了時アンケートから学生が「難しい」と感じた項目について、3回の演習講義（オンライン）を実施した。
2. 岡山理科大学、化粧品概論の特別講義	2017年12月14日	「化粧品の安全性保障業務」について、新聞、ニュース記事なども用いた資料を作成した。基礎からわかりやすい資料を作成し、企業での実務内容について講義を行った。
3. 岡山理科大学、化粧品概論の特別講義	2016年11月26日, 2012年6月16日	「メラニン色素の科学」、「美白剤開発」について、新聞、ニュース記事なども用いたわかりやすい資料を作成し、基礎から企業での実務内容について講義を行った。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. アカデミックセミナー（中国広州）での講師	2019年10月21日	日本の化粧品原料メーカー合同セミナーにて講師としてリン脂質の化粧品応用について講演した。
2. アカデミックセミナー（中国上海）での講師	2018年10月21日	日本の化粧品原料メーカー合同セミナーにて講師として、両親媒性エステル油の表皮浸透促進技術について講演した。
3. 研究員教育	2006年4月~2007年5月	和研薬株式会社にて研究記録管理の体制構築を行い、教育係として、約10名の研究員の教育を行った。
4 その他		
1. 武庫川女子大学附属高等学校の連携授業	2023年6月5日	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校2年生約40名に対して実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
2. 高校生向け実験授業	2022年12月26日	追手門高校1年生15人に対して、実験授業を行った。
3. 武庫川女子大学附属高等学校の連携授業	2022年10月31日	タイトル「市販美白化粧品のメラニン生成抑制効果」スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校2年生約40名に対して実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
4. 科学交流研修会	2022年10月31日	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校生も参加できる実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
5. 中学校出前授業	2022年10月24日	西宮市立学文中学校1年生2クラス（約70名）に向けてキャリア教育に関する出前授業を行った。タイトル「「化粧品にかかわる仕事を知ろう！」
6. 科学交流研修会	2022年7月22日	兵庫県下の高校生8名に対して、実験授業を行った。 「市販美白化粧品のメラニン生成抑制効果」
7. 中学校出前授業	2022年3月1日	西宮市立浜脇中学校1年生2クラス（約70名）に向けてキャリア教育に関する出前授業を行った。タイトル「「化粧品にかかわる仕事を知ろう！」その様子が神戸新聞阪神版に掲載された。
8. 武庫川女子大学附属高等学校の連携授業	2021年11月22日	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校2年生約40名に対して実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
9. 武庫川女子大学附属高等学校の連携授業	2021年2月15日	る？」 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校2年生約40名に対して実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
1. 微細藻類由来の新規な抽出物	2020年8月4日	出願番号：2020-132256
2. ホスファチジルイノシトール含有生理活性組成物	2020年7月9日	出願番号：2018-242080
3. 皮膚常在菌バランス改善剤	2020年3月31日	出願番号：2020-61790
4. ホスファチジルイノシトールを有効成分とする生理活性組成物	2020年3月9日	出願番号：2020-039533
5. 刺激緩和剤	2018年8月28日	出願番号：2018-159343
6. サーチュイン1 遺伝子活性化剤	2018年6月20日	出願番号：2018-116640
7. ホスファチジルイノシトール含有複合体	2018年4月25日	出願番号：2018-083875
8. ヒアルロン酸産生促進剤	2017年12月7日	出願番号：2017-234787
9. ヒアルロン酸産生促進剤およびこれを配合した化粧品	2017年6月27日	出願番号：2017-094481
10. 化粧品	2017年5月11日	出願番号：2017-125832
11. パルミトイル化によるチロシナーゼの修飾によるメラニン形成の調節	2012年12月20日	Application No. US61/740,048
12. Skin lightening compositions	2010年1月6日	Application No. PCT/US2011/020240
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 市民対象講座インターカレッジ西宮の講師	2022年6月15日2022年6月22日	西宮市主催の市民対象講座インターカレッジ西宮において、2回の「化粧品学レクチャー」を行った。受講生約50名。
2. 日本骨格メイク協会主催セミナーでの講演	2021年1月16日	オンラインでのセミナー講演を行った。 タイトル「美しい肌色のための皮膚科学」
3. 技術教育出版主催セミナーでの講演	2019年10月24日	アンチエイジング・抗老化化粧品のオーバービューとこれからの展開、-皮膚科学・商品トレンドをベースに- トラネキサム酸のアンチエイジング効果について講演した。
4. 業務特別表彰受賞（日本精化株式会社）	2019年2月12日	国内外学術発表による製品ブランドの向上
5. 宇都宮大学との共同研究	2018年10月2019年9月	表皮モデルにおけるセラミド産生の解析
6. 第6回加計学園コスメティックサイエンスシンポジウム	2018年10月	両親媒性エステルによる水溶性化粧品有効成分の表皮浸透促進効果について講演を行った。
7. 東京工科大学との共同研究	2018年4月2020年3月	トラネキサム酸による皮膚のアンチエイジング効果について
8. 技術教育出版主催セミナー	2018年1月26日	美白化粧品研究開発のトレンドと最新技術セミナーにて、メラニン生成酵素チロシナーゼをターゲットとした美白コンセプトについて講演した。
9. 化粧品原料展示会CITE JAPAN2017での技術発表	2017年6月1日	両親媒性エステル、リポソームなどの浸透促進素材に関する技術発表を約100名の聴講者に実施。
10. インターンシップの主導（日本精化株式会社）	2017年-2018年	3回のインターンシップを主導し、のべ4大学15名の学生に参加いただき、1名の採用に繋がった。
11. 同志社大学セミナーでの講演	2009年1月	メラニン色素生成量及び質へのtyrp-2遺伝子変異の影響について講演を行った。
12. 地域新生コンソーシアム研究開発事業「オミックス解析技術による新規代謝動態解析装置の開発」	2006年-2007年	京都大学を中心とする産官学連携研究に参加。無細胞コムギタンパク質システムによる酵素合成とプロテオミクス解析を担当した。
13. 化粧品原料受託試験事業の立ち上げと運営（株式会社バイオリサーチ）	2003年-2005年	美白剤探索、有効性評価等の化粧品原料受託評価業を新規に立ち上げ、年間1200万円の売上を達成。技術営業から試験実施、報告書作成などを担当した。
14. 地域新生コンソーシアム研究開発事業「ガン中性子捕捉療法用に最適化デザインされたナノデバイスの	2002年	京都大学が中心となる産官学連携研究、地域新生コンソーシアム研究開発事業「ガン中性子捕捉療法用に最

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
開発」		適化デザインされたナノデバイスの開発」に登録研究員として参加。ホウ素中性子補足療法用デバイスの生体内動態の解析を行った。		
4 その他				
1. 親子向け実験イベント	2022年8月9日	ららぼーと甲子園にて、親子向け実験イベント「太陽の光で色が変わる不思議なスライム作り」を研究室の学生と企画、実施した。幼稚園児～中学生の親子59組が参加した。		
2. 武庫女スマイルフェス2021	2021年2月15日2021年2月21日	ららぼーと甲子園と武庫川女子大学の合同イベントである「武庫女スマイルフェス」において、研究室配属生3年生3名によるアンケート調査「with コロナ生活と化粧品」の実施及びポスター展示発表の指導を行った。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 最新皮膚エイジングメカニズムと高機能性シワ改善化粧品の開発	共	2020年6月	シーエムシー出版	第23章「トラネキサム酸のアンチエイジング効果について」を執筆
2. 最新・化粧品開発のための美容理論、処方/製剤、機能評価の実際	共	2018年7月	技術教育出版社	第9章「メラニン生成酵素チロシナーゼをターゲットとする美白コンセプト」を執筆
2 学位論文				
1. 1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propane(DP)は、二重の機構でメラニン生成を抑制する。	単	2011年10月	藤田保健衛生大学(医学部)	キキョウランから見出された、1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propane(DP)は、抗酸化作用とチロシナーゼの分解促進によってメラニン生成を抑制する。
3 学術論文				
1. Tranexamic Acid Improves the Disrupted Formation of Collagen and Fibrillin-1 Fibers Produced by Fibroblasts Repetitively Irradiated with UVA (査読あり)	共	2021年2月	Biological and Pharmaceutical Bulletin	紫外線A波を繰り返し照射した真皮線維芽細胞を光老化モデル細胞とし、トラネキサム酸は、PGE2合成を抑制し、真皮マトリクスであるコラーゲンやフィブリリン繊維の形成を改善する光老化防止剤として有効である可能性を示した。 Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H (2021); 2:122-125
2. The suppressive effects of phosphatidylinositol-rich liposomes on unknown influence of Blue Lights on deterioration of skin moisturizing function -Focus on oxidative damage of mitochondria-	共	2020年10月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2020	ブルーライト (BL) が皮膚に与える酸化ストレスが近年明らかになってきている。本研究では、BL照射によって引き起こされるミトコンドリアの損傷が、皮膚の水分機能障害に関連する酸化ストレスの増加とカルボニル化タンパク質(CPs)の蓄積につながる可能性を示唆した。また、リン脂質の1種である phosphatidylinositolが豊富なりポソームは、CPsの蓄積によって引き起こされる保湿機能障害を効果的に改善し、BL誘発ミトコンドリア損傷を減らすことができることを示した。 Niki Y, Endo K, Onouchi H, Iwasaki K, Kotera H, Ohashi Y, Masaki H 21-30 October, 2020, Proceeding
3. 紫外線、ブルーライト、近赤外線照射に	共	2020年7月	フレグランスジャーナル	ブルーライト、近赤外線によって、表皮細胞のメラノソーム取込みが増加することを見出し、これらの波長の光が色素斑形成の要因と

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
<p>よる色素斑形成の可能性とホスファチジルイノシトール高配合リポソームの抑制効果</p>				<p>なりえることを示した。またホスファチジルイノシトールによって、表皮細胞によるメラノソーム取込みが抑制されることを示した。 遠藤香凛、仁木洋子、小寺啓貴</p>
<p>4. 生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームのヒアルロン酸合成促進作用と保湿効果</p>	共	2020年1月	フレグランスジャーナル	<p>生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームの保湿、抗シワ、ヒアルロン酸合成促進作用について培養細胞、およびヒト試験で検討した。 仁木洋子、小寺啓貴、岩崎和弘、遠藤香凛</p>
<p>5. 生理活性脂質ホスファチジルイノシトールを高配合したリポソーム調整素材、PrimeLipid? PIの保湿・抗シワ・美白・抗酸化効果について</p>	共	2020年1月	The K Beauty Science	<p>生理活性脂質ホスファチジルイノシトールを高配合したリポソームによる、保湿、抗シワ、美白、抗酸化効果について細胞、ヒトレベルで示した。 Endo K, Niki Y, Kotera T, Iwasaki K, Ohashi Y,</p>
<p>6. Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light</p>	共	2019年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2019	<p>ホスファチジルイノシトール高配合リポソームは、細胞内の抗酸化システムを活性化させ、色素斑形成を抑制する可能性を見出した。 Endo K, Niki Y, Tkotera K, Ohashi Y, Masaki H, 30, September, 1-2, October, 2019, Proceeding</p>
<p>7. Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture</p>	共	2019年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2019	<p>生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームのヒアルロン酸合成促進作用について、レチノイン受容体及びEGFR受容体の双方を介するメカニズムである可能性を示した。 Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, 30, September, 1-2, October, 2019, Proceeding</p>
<p>8. サトウキビ由来イヌリン「Inulin-SC」の化粧品への応用</p>	共	2019年6月	フレグランスジャーナル韓国	<p>サトウキビ由来の多糖体であるイヌリンの化粧品としての特徴を示した。 岩崎和弘、勝間田祐貴、仁木洋子 (2019);6:122-125</p>
<p>9. 両親媒性エステル油剤による表皮、毛髪への有効成分の浸透促進及び有効成分の効果向上とそのメカニズム</p>	共	2019年3月	フレグランスジャーナル	<p>両親媒性エステルの表皮浸透促進剤に関する検討を行い、水溶性成分の表皮及び毛髪への浸透促進作用とそのメカニズムを解明した。 仁木洋子、勝間田祐貴、山川智史、釋氏梨沙 (2019);3:58-62</p>
<p>10. 浸透促進剤Neosolue-Aquilioによる表皮、毛髪への有効成分の浸透促進及び有効成分の効果向上そのメカニズム</p>	共	2018年10月	フレグランスジャーナル韓国	<p>両親媒性エステルCH-CAの水溶性成分の表皮浸透促進効果について示した。 仁木洋子、勝間田祐貴、山川智史、釋氏梨沙 (2018);10:86-91</p>
<p>11. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the</p>	共	2018年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic	<p>トラネキサム酸は真皮線維芽細胞のサーチユイン1遺伝子発現を向上させ、紫外線曝露によって低下したコラーゲン産生能、エラスチン関連遺伝子の発現を回復させる。 Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 18-21, September, 2018, Proceeding</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
activation of SIRT-1 12. Efficacy and Mechanisms of Action of the Skin Penetration Enhancer Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA) on the Epidermal Penetration Rate of Water-Soluble Ingredients.	共	2018年9月	Chemists, IFSCC2018 The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2018	両親媒性エステルの水溶性成分の表皮浸透促進効果について検討し、水溶性成分トラネキサム酸の表皮浸透性と美白効果が向上することを示した。 Niki Y, Yamakawa S, Kikuchi R, Koyama M, Ohashi Y, Masaki H, 18-21, September, 2018, Proceeding
13. ナノサイズベシクルを容易に調製できるバイオサーファクタントプレミックス新素材	共	2017年3月	フレグランスジャーナル韓国	バイオサーファクタントについて、化粧品としての応用を示し、皮膚浸透性について解析を行った。 福永悟史、橋本明宏、勝間田祐貴、仁木洋子 (2017);3:76-79
14. Omeprazole, a gastric proton pump inhibitor, inhibits melanogenesis by blocking ATP7A trafficking (査読あり)	共	2015年3月	Journal of Investigative Dermatol	プロトンポンプ阻害剤はATP7の細胞内輸送を阻害し、メラニン合成を抑制する。 Matsui MS, Petris MJ, Niki Y, Karaman-Jurukovska N, Muizzuddin N, Ichihashi M, Yarosh DB. (2015)135(3):834-841
15. Heparin inhibits melanosome uptake and inflammatory response coupled with phagocytosis through blocking PI3k/akt MEK/ERK signaling pathways in human epidermal keratinocytes. (査読あり)	共	2014年6月	Pigment Cell Melanoma Res.	ヘパリンは、炎症反応に作用しケラチノサイトによるメラノソーム取り込みを阻害する。 Makino-Okamura C, Niki Y, Takeuchi S, Nishigori C, Declercq L, Yaroch DB, Saito N. (2014);27(6): 1063-74.
16. Melanosomes are transferred from melanocytes to keratinocytes through the processes of packaging, release, uptake, and dispersion. (査読あり)	共	2012年4月	J Invest dermatol.	メラノソームは色素細胞から小胞体にパッキングされ放出されケラチノサイトに取り込まれる。 Ando H, Niki Y, Ito M, Akiyama K, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M (2012);132 (4):1222-9.
17. 1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl) propane inhibits melanin synthesis by dual mechanisms. (査読あり)	共	2011年2月	J Dermatol Sci.	1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl) propaneは、複数の作用メカニズムでメラニン生成を抑制する。 Niki Y, Yoshida M, Ando H, Wakamatsu K, Ito S, Harada N, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. (2011);63(2):115-21.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
18. Involvement of pigment globules containing multiple melanosomes in the transfer of melanosomes from melanocytes to keratinocytes. (査読あり)	共	2011年1月	Cell Logist.	メラノソームをバックングしたpigment globulesが、メラノサイトからケラチノサイトへのメラノソーム移送に関与する。 Ando H, Niki Y, Yoshida Y, Ito M, Akiyama K, Jin-Hwa K, Tae-Jin Y, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M (2011)1(1):12-20.
19. Modification of skin discoloration by a topical treatment containing an extract of Dianella ensifolia : a potent antioxidant. (査読あり)	共	2010年9月	J Cosmet Dermatol.	キキョウランから抽出物は抗酸化作用を持ち、皮膚への有効性を発揮する。 Mammone T, Muizzuddin N, Declercq L, Clío D, Corstjens H, Sente I, Van Rillaer K, Matsui M, Niki Y, Ichihashi M, Giacomoni PU, Yarosh D. (2010) 9(2):89-95.
20. Keratinocytes in culture accumulate phagocytosed melanosomes in the perinuclear area. (査読あり)	共	2010年2月	Pigment Cell Melanoma Res.	培養ケラチノサイトに取り込まれたメラノソームは細胞核周辺に集積する。 Ando H, Niki Y, Yoshida M, Ito M, Akiyama K, Kim J. H, Yoon T. J, Lee J. H, Matsui M. S, Ichihashi M. (2010) 23:129-33.
21. Photoaging of the skin (査読あり)	共	2009年9月	Japanese Society of Anti-Aging Medicine	皮膚の光老化に関するReview Ichihashi M, Ando H, Yoshida M, Niki Y, Matsui M, (2009) : 6 (6) :46-59
22. Reexamination of microanalytical methods for melanin assay (査読あり)	共	2008年4月	Pigment Cell Melanoma Res.	生体組織内メラニン色素の微量定量法について Wakamatsu, K, Ito, S, Niki, Y, Hirobe, T, Brilliant, M. (2008) 21(2):251-252.
23. Study on the compounds containing 19F and 10B atoms in a single molecule for the application to MRI and BNCT. (査読あり)	共	2006年10月	Bioorg Med Chem.	19Fと10Bを含むMRIイメージング及びホウ素中性子捕捉療法用分子の開発 Hattori Y, Asano T, Niki Y, Kondoh H, Kirihata M, Yamaguchi Y, Wakamiya T. (2006) 14(10):3258-62.
24. Improvement of the tumor-suppressive effect of boron neutron capture therapy for amelanotic melanoma by intratumoral injection of the tyrosinase gene. (査読あり)	共	2006年7月	Cancer Res.	アメラノティックメラノーマへのチロシナーゼ遺伝子導入はホウ素中性子捕捉療法の効果を増強させる。 Morita, N, Hiratsuka. J, Kondoh H, Uno M, Asano T, Niki Y, Sakurai Y, Ono K, Harada, T, Imajo Y. (2006) 66(7):3747-53.
25. Intracellular composition of fatty acid affects the processing and function of	共	2006年2月	Biochem J.	細胞内脂質組成がユビキチンプロテアソーム経路を介してチロシナーゼの分解に関与する。 Ando H, Wen ZM, Kim HY, Valencia JC, Costin GE, Watabe H, Yasumoto K, Niki Y, Kondoh H, Ichihashi M, Hearing VJ. (2006) 394: 43-50.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
tyrosinase through the ubiquitin-proteasome pathway. (査読あり)				
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
1.Regulation of Melanin Synthesis by S-Palmitoylation of Tyrosinase	共	2018年11月	第28回日本色素細胞学会	溝口昌子賞受賞講演 チロシナーゼの翻訳後脂質修飾（パルミトイル化）によるメラニン生成の調整機構について 仁木洋子
2. 日本の医薬部外品研究トレンド～美白剤、しわを改善する化粧品～	単	2018年5月	The 4th international Functional Cosmetics R&D Innovation Forum	2018年10月14日、神戸、英語講演 日本の医薬部外品（美白剤、シワ改善剤）の開発について、約100名の韓国化粧品メーカー研究者及び大学の化粧品研究者に講演した。 仁木洋子
3.Regulation of melanin synthesis by S-palmitoylation of tyrosinase.	共	2013年5月	International Investigative Dermatology,	2018年5月18日、成均館大学（韓国ソウル） Intersociety Young Fellow Collegiality Awards受賞講演 パルミトイル化によるメラニン生成の調整について Niki Y 2013年5月15日、 The San Gallicano Dermatological institute、ローマ、英語口演
2. 学会発表				
1.角層アミノペプチダーゼ活性を阻害する外部要因	共	2022年3月28日	日本薬学会第142年会（名古屋）	川崎朝未、山本明日香、吉田萌生、仁木洋子、平尾哲二 2022年3月25-28日 オンライン（ポスター発表）
2.紫外線照射による毛髪タンパク質のカルボニル化促進とγ-ドコサラクトンによる抑制効果	共	2022年3月26日	日本薬学会第142年会（名古屋）	前園詩織、吉田萌生、小寺啓貴、勝間田祐貴、仁木洋子 2022年3月25-28日 オンライン（ポスター発表）
3.Phosphatidylinositol-rich liposomes prevent oxidative stress induced by diesel particulate matter through suppression of activation of aryl hydrocarbon receptor (AhR)	共	2021年12月3日	IFSCC2021カンクーン中間大会 国内報告会	Niki Y, Onouchi H, Kotera H, Ohashi Y 2021年12月3日 オンライン ポスター発表
4.Phosphatidylinositol-rich liposomes prevent oxidative stress induced by diesel particulate matter through suppression of activation of aryl hydrocarbon receptor (AhR)	共	2021年10月18日	The 32st IFSCC conference 2021	Niki Y, Onouchi H, Kotera H, Ohashi Y 2021年10月18-28日 メキシコ（オンライン） ポスター発表
5.カミソリ剃毛の皮膚バリア機能に及ぼす影響	共	2021年6月25日	第46回日本香粧品学会	萩原穂香、木部龍太、原和暢、塩谷俊介、仁木洋子、平尾哲二 2021年6月25-26日（オンライン）
6.The suppressive effects of phosphatidylinositol-rich liposomes on unknown	共	2020年10月21日	The 31st IFSCC Congress 2020	Niki Y, Endo K, Onouchi H, Iwasaki K, Kotera H, Ohashi Y, Masaki H 2020年10月21日 オンライン（ポスター）発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
influence of Blue Lights on deterioration of skin moisturizing function -Focus on oxidative damage of mitochondria-				
7. Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light	共	2019年11月27日	IFSCC2019国内報告会	Endo K, Niki Y, Kotera T, Ohashi Y, Masaki H 2019年11月27日、東京 ポスター発表
8. Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年11月27日	IFSCC2019国内報告会	Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, 2019年11月27日、東京 ポスター発表
9. トラネキサム酸は光老化モデル線維芽細胞の真皮マトリックス再生を促進する	共	2019年10月	日本化粧品学会	遠藤香凜、仁木洋子、大橋幸浩、正木仁 2019年6月28-29日、東京 口頭発表
10. Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light	共	2019年9月30日	25th IFSCC 2019 Conference	Endo K, Niki Y, Kotera T, Ohashi Y, Masaki H, 2019年9月30日-10月2日、ミラノ ポスター発表
11. Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年9月30日	25th IFSCC 2019 Conference	Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, 2019年9月30日-10月2日、ミラノ ポスター発表
12. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年12月	IFSCC2018国内報告会	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2019年10月21日、東京 ポスター発表
13. Efficacy and Mechanisms of action of the Skin	共	2018年12月	IFSCC2018国内報告会	Niki Y, Yamakawa S, Kikuchi R, Koyama M, Ohashi Y, Masaki H, 2018年12月21日、東京

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
Penetration Enhancer Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA) on Epidermal Penetration Rate of Water-Soluble Ingredients.				口頭発表
14. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	30th IFSCC CONGRESS 2018	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年9月18-21日、ミュンヘン
15. Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	30th IFSCC CONGRESS 2018	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年9月18-21日、ミュンヘン ポスター発表
16. UVA 照射により誘導した老化線維芽細胞に注目したトラネキサム酸の新規色素斑形成抑制作用	共	2018年8月	第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年8月4-5日、東京 口頭発表
17. Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA)の皮膚及び毛髪への水溶性有効成分の浸透促進作用と有効性向上について	共	2018年8月	第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	Niki Y, katsumata Y, Yamakawa S, Koyama M, Ohashi Y, 2018年8月4-5日、東京 口頭発表
18. Palmitoylation of tyrosinase regulates melanin synthesis through ubiquitination.	共	2014年9月	22th International Pigment Cell Conference	Niki Y, Fukata M, Fukata Y, Oku S, Okamura C, Takeuchi S, Wakamatsu K, Ito S, Nishigori C, Declercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2014年9月4-7日、シンガポール 口頭発表
19. メラニン合成制御薬のターゲットとしてのチロシナーゼのS-パルミトイル化現象	共	2014年6月20日	第125回薬理学会近畿部会	齋藤尚亮, 仁木洋子, 深田正紀, 深田優子, 奥慎一郎, 岡村千絵子, 竹内聖二, 若松一雅, 伊藤祥輔, 錦織千佳子, Lieve Declercq, Daniel Yarosh 岡山コンベンションセンター, 口頭発表
20. チロシナーゼのS-パルミトイル化はその分解を制御しメラニン生成を調整する	共	2013年11月	第25回日本色素細胞学会	仁木洋子, 深田正紀, 深田優子, 奥慎一郎, 岡村千絵子, 竹内聖二, 若松一雅, 伊藤祥輔, 錦織千佳子, Lieve Declercq, Daniel Yarosh, 齋藤尚亮 2013年11月16-17日、大阪大学 口頭発表
21. Heparin inhibits melanosome uptake and inflammatory response coupled with phagocytosis through blocking PI3k/akt MEK/ERK signaling pathways in human epidermal	共	2013年5月	International Investigative Dermatology	Okamura C, Takeuchi S, Niki Y, Nishigori C, Declercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2013年5月8-11日、エジンバラ ポスター発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
keratinocytes. 22.3次元皮膚培養細胞を使った皮膚糖化モデルの検討	共	2013年5月	第12回日本抗加齢医学会総会	優秀演題賞受賞 一條遼, 八木雅之, 仁木洋子, 市橋正光, 米井嘉一 2012年6月22-24日、横浜 ポスター発表
23.Regulation of melanin synthesis by S-palmitoylation of tyrosinase.	共	2013年5月	International Investigative Dermatology	Intersociety Young Fellow Collegiality Awards受賞 Niki Y, Fukata M, Fukata Y, Oku S, Okamura C, Takeuchi S, Wakamatsu K, Ito S, Nishigori C, Declercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2013年5月8-11日、エジンバラ ポスター発表
24.Slaty mutation inverses the ratio of DHI and DHICA content of eumelanin in both mouse melanocytes and hair.	共	2012年9月	21th International Pigment Cell Conference	Niki Y, Hirobe T, Wakamatsu K, Ando H, Yoshida M, Ichihashi M and Ito S 2011年9月7-12日、ポルドー ポスター発表
25.The inhibition of PAR-2 downstrem signaling can prevent keratinocyte	共	2012年5月	72th Society for Investigative Dermatology	Okamura C, Takeuchi S, Niki Y, Decleaq L, Yarosh DB, Nishigori C, Saito N 2012年5月9-12日、ローリー、 ポスター発表
26.Live imaging analysis of melanosome transfer using lipophilic tracer.	共	2012年5月	72th Society for Investigative Dermatology	Takeuchi S, Okamura C, Niki Y, Nishigori C, Decleaq L, Yarosh DB, Saito N 2012年5月9-12日、ローリー、 ポスター発表
27.Melanocyte dendrites penetrate through a microporous membrane filter and generate large pigment globules containing multiple melanosomes which transfer to keratinocytes below	共	2011年9月	21th International Pigment Cell Conference	Ando H, Niki Y, Ito M, Akiyama K, Matsui MS, Yarosh DB and Ichihashi M 2011年9月7-12、ポルドー、ポスター発表
28.Possible involvement of shedding vesicle system in the melanosome transfer pathway	共	2011年5月	71th Society for Investigative Dermatology	Ando H, Niki Y, Ito M, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. 2011年5月4-7日、フェニックス、ポスター発表
29.Omeprazole (proton pump inhibitor) inhibits melanin synthesis accompanied by a decreased pH in the acidic cell compartment.	共	2011年5月	71th Society for Investigative Dermatology	Niki Y, Yoshida M, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M 2011年5月4-7日、フェニックス ポスター発表
30.UV連続照射により早期老化したヒト皮膚線維芽細胞におけるPGC1-αとSirtuin-1	共	2010年12月	第10回日本抗加齢医学会総会	吉田雅紀, 仁木洋子, 安藤秀哉, Mary S. Matsui, Daniel B. Yarosh, 市橋 正光 2010年6月 11-13日、京都国際会議場、口頭発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
の減少				
31.メラノソームトランスファー機構におけるケラチノサイト内メラノソーム包含膜形的重要性	共	2010年11月	第23回日本色素細胞学会学術大会	安藤秀哉, 仁木洋子, 吉田雅紀, Mary S. Matsui, Daniel B. Yarosh, 市橋 正光 2010年11月27-28日、東京慈恵会医科大学、口頭発表
32.新規メラノソームトランスファーメカニズムの解明:多数のメラノソームを含有した膜小胞の発見	共	2010年6月	第10回日本抗加齢医学会総会	安藤秀哉, 仁木洋子, 吉田雅紀, Mary S. Matsui, Daniel B. Yarosh, 市橋 正光 2010年6月11-13日、京都国際会議場、口頭発表
33.1-(2,4-dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propaneは、複合的な機構でメラニン生成を抑制し、美白効果を発揮する	共	2010年6月	第10回日本抗加齢医学会総会	仁木洋子, 吉田雅紀, 安藤秀哉, Mary S. Matsui, Daniel B. Yarosh, 市橋 正光 2010年6月11-13日、京都 ポスター発表
34.UCP2 is associated with differentiation in human epidermal keratinocytes via regulation of ATP production.	共	2010年5月	70th Society for Investigative Dermatology	Yoshida M, Niki Y, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M 2010年5月5-8日、アトランタ、ポスター発表
35.Melanocyte dendrite-derived globules secreted into the culture medium are possible transporters of melanosomes in the melanosome transfer mechanism.	共	2010年5月	70th Society for Investigative Dermatology	Ando H, Niki Y, Yoshida M, Ito M, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M 2010年5月5-8日、アトランタ、ポスター発表
36.1-(2,4-dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl)propane inhibits melanin synthesis by multiple mechanisms.	共	2010年5月	70th Society for Investigative Dermatology	Niki Y, Yoshida M, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. 2010年5月5-8日、アトランタ ポスター発表
37.A new proposal for the evaluation method of melanosome transfer in respect to melanosome uptake by keratinocyte phagocytosis.		2009年12月	第22回日本色素細胞学会学術大会	安藤秀哉 仁木洋子, 吉田雅紀, Matsui MS, 市橋正光 2009年12月5-6日、福岡、ポスター発表
38.UCP2 is associated with differentiation in human epidermal keratinocytes.	共	2009年12月	第34回日本研究皮膚科学会	吉田雅紀, 仁木洋子, 安藤秀哉, Matsui MS, 市橋正光 2009年12月4-6日、福岡、口頭発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
39. Reexamination of microanalytical methods for melanin assay	共	2008年5月	20th International Pigment Cell Conference and 5th International Melanoma Research Congress	Wakamatsu K, Ito S, Niki Y, Hirobe T and Brilliants M 2008年5月7-12日、札幌
40. Comparison of cultured Epidermal melanocytes from wild type mouse and its congenic, Slaty mutant mouse.	共	2008年5月	20th International Pigment Cell Conference and 5th International Melanoma Research Congress	Niki Y, Wakamatsu K, Ando H, Hirobe T, Ichihashi M and Ito S. 2008年5月7-12日、札幌 ポスター発表
41. Comparison of cultured Epidermal melanocytes from wild type mouse and its congenic, Slaty mutant mouse.	共	2005年12月	第19回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子, 若松一雅, 近藤浩文, 広部知久, 伊藤祥輔 2005年12月3-4日、東京 口頭発表
42. Intracellular fatty acids affect the processing and function of tyrosinase through the ubiquitin-proteasome pathway	共	2005年9月	19th International Pigment Cell Conference	Ando H, Wen ZM, Kim HY, Valencia JC, Costin GE, Watabe H, Yasumoto K, Niki Y, Kondoh H, Ichihashi M, Hearing VJ 2005年9月18-22、レストン、ポスター発表
43. The incorporation mechanism of p-Boronophenylalanine (BPA-ol) into tumor cells - Relevance with an amino acid transportation system-	共	2005年9月	12th International Conference on Boron Chemistry	Niki Y, Kondoh H, Asano T and Kirihata M. 2005年9月11-15日、仙台 ポスター発表
44. Role of Glycosylation in Pheomelanogenesis : Effect of Glucosamine on Enzymic/non-enzymic Pathway.	共	2004年11月	第17回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子, 近藤浩文, 若松一雅, 田辺不二美, 伊藤祥輔, 三嶋豊 2004年11月29-30日、東京 口頭発表
45. The Incorporation Mechanism of p-Boronophenylalanine (BPA-ol) into Tumor Cells.	共	2004年10月	11th World Congress on Neutron Capture Therapy	Niki Y, Kondoh H, Asano T and Kirihata M 2004年10月11-15日、ボストン ポスター発表
46. Future Analyses on The Actions of Boronophenylalanine (BPA) to The Dynamics of Melanin Monomers/	共	2003年12月	第16回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子, 近藤浩文, 若松一雅, 伊藤祥輔, 三嶋豊 2003年12月7-8日、名古屋 口頭発表

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要	
2. 学会発表					
Polymers Synthesis in Pigment Cells and Their Excretion into Culture Medium. 47. p-boronophenylalanin ol(BPA-ol)の癌細胞内への取り込み機構—アミノ酸輸送系との関連性—	共	2003年8月	第1回日本中性子捕捉療法研究会	仁木洋子, 近藤浩文, 浅野智之, 切畑光統 2003年8月30-31日、京都 口頭発表	
48. Interaction Between p-BPA and precursor of Melanin Prepared from Greene's Hamster Melanoma.	共	2000年10月	9th World Congress on Neutron Capture Therapy	優秀演題賞受賞 Takase M, Yoshino K, Kamijo M, Niki Y, Kondoh H, Hiratsuka J and Mishima U. 2000年10月2-6日、大阪 ポスター発表	
3. 総説					
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績					
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等					
1. 酸化ダメージによる毛髪タンパク質のカルボニル化と化粧品素材による抑制効果	共	2022年3月3日	バイオサイエンス研究所 2021年度研究成果発表会	紫外線B波による毛髪の酸化ダメージであるタンパク質のカルボニル化をアミノ基を介する毛髪結合性ヘアケア成分が有意に抑制することを示した。	
2. 熱及び紫外線による毛髪のカルボニル化	共	2021年3月6日	バイオサイエンス研究所 2020年度研究成果発表会	毛髪にダメージを与える熱や紫外線による毛髪酸化ストレスをカルボニル化タンパク質の検出から解析を行った。	
6. 研究費の取得状況					
1. 身体用製品の皮膚への影響評価	単	2022年4月1日～	共同研究費 アルボース株式会社	産業活用が進んでいない丹波地方に自生する樹木の熱水抽出物について、皮膚細胞への酸化ダメージ抑制効果を評価した。	
2. 化粧品成分の毛髪浸透に関する研究	単	2021年9月1日～	奨学寄附金 小泉成器		
3. 丹波地方に自生する樹木由来素材のアンチエイジング化粧品応用に関する研究	単	2021年9月	ダイバーシティ推進センター女性研究者賞 200千円		
4. 皮膚適応素材の皮膚浸透に関する研究	単	2021年6月1日	共同研究費 旭化成株式会社		
5. 医療器具処理剤の細胞毒性に関する研究	単	2021年4月1日～	共同研究費 アルボース株式会社		
6. 紫外線応答型リポソームの膜融合性を用いた送達システムの開発	共	2021年4月	コーサーコスメトロジー研究助成 分担		紫外線応答リポソームについて、水溶性物質の経皮到達デバイスとしての可能性を評価するために、培養細胞や3次元ヒト皮膚モデルを用いる評価を行う
7. 生理活性脂質に関する研究	単	2020年10月1日～	共同研究費 日本精化株式会社		
8. 紫外光応答性マラカイトグリーン誘導体含有リポソームの表皮浸透性の検討	共	2020年9月	異分野交流会共同研究スタートアップ研究支援費 助成金額：300千円 代表		紫外線応答リポソームの経皮到達デバイスとしての可能性を評価するために、3次元ヒト皮膚モデルを用いて表皮浸透性を評価した。
9. チロシナーゼのS-パルミトイル化によるメラニン生成制御に	単	2020年7月1日～	共同利用研究課題 助成金 神戸大学バイオシ		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
について			グナル研究センター	
10. 化粧品分野の生理活性研究	単	2020年6月1日～	奨学寄附金 日本精化株式会社	
11. メラノソーム成熟におけるBACE2パルミトイル化の役割	単	2015年4月	科学研究費若手研究（B） 助成金額：3, 510千円 代表	メラニン色素生成の場であるメラノソーム成熟において、メラノソーム構造タンパク質のPMEL17を切断する酵素であるBACE2の翻訳後脂質修飾（パルミトイル化）が果たす役割を検討した。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2016年4月～	日本動物実験代替法学会
2. 2016年4月～	日本美容皮膚科学会
3. 2015年4月～	日本化粧品技術者会
4. 2015年4月～	日本化粧品学会 2021年から評議員
5. 2008年4月～	日本研究皮膚科学会
6. 2001年4月～	日本色素細胞学会 2021年から理事